

第1回「豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会」 議事要旨

日 時：平成26年10月17日（金）15:00～17:00

場 所：豊田市役所 南52会議室

1. 開会
2. 主催者挨拶（豊田市副市長）
3. 委員紹介
4. 委員会の運営について
 - 1) 委員会設立趣意書・委員会規約（案）について
 - ・「設立趣意書」について、内容の確認がなされた。
 - ・「豊田市矢作川活性化プラン検討委員会規約（案）」について、内容の確認がなされ、原案が了承された。
 - 2) 委員会の情報公開について（案）
 - ・「豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の情報公開について（案）」について、内容の確認がなされ、原案が了承された。
5. 委員長挨拶
6. 議事
 - 1) 豊田市矢作川河川環境活性化プランの概要について
 - ・豊田市矢作川河川環境活性化プラン策定の進め方について、内容の確認がなされ、承認を得た。
 - 2) 矢作川河川環境の現状把握と課題の整理について
 - ・自然環境の視点、まちづくりの視点、流域管理の視点の3つの視点での課題整理について承認を得た。
7. 閉会

<質疑における主な意見>

○全般

- (委員) 委員会には、豊田市域を受益地としている豊田土地改良区も参加していただいたほうが良い。
- (委員) テーマを扱っている範囲が広い。それぞれの分野をまとめていくのか、各論のまま検討を進めるのか。
- (事務局) プラン策定区間は長く地域の特性も異なるため、エリアに分けてカルテを作成したいと考えている。
- (委員) 矢作川本川で議論を進めていくうえで、支川の影響は大きいのか。
- (事務局) 生物相として、支川の昆虫が羽化や産卵のために矢作川本川を行き来していることなどを、矢作川研究所でも把握している。そういう意味でも支川も含めて、流域全体でプランの検討を進めたいと考えている。
- (委員) 様々な事項が絡み合っている現象なので、この会で何を取り上げるかを考え効果的に進めていく必要がある。
- (委員) 矢作川の効能については、どんどん公開すべきである。
- (委員) 豊田市は総合行政で、いろんなことにそれぞれ責任を感じながら、仕事をする立場だと自覚している。このため、気候変動、土砂災害、河川氾濫が起こっても、社会が持続していくことが一番だと考えている。このような変化に対応していくための視点でも議論を深めていきたい。

○生物相

- (委員) 愛知では、支流の魚の移動阻害の対策として、魚道整備を一部で実施している。これからは矢作川本川で魚の生息場所などの調査をしていきたい。

○河床地形

- (委員) 現状把握では河床低下の問題がある。巴川の合流点では昭和 30 年ごろから約 7 m程度河床が低下している。

○気象

- (委員) 現在、学会では中都市のヒートアイランドの研究が主流であり、大都市のようにならないようにヒートアイランド強度を抑えるかが重要な課題になっている。豊田市のヒートアイランド強度は、2010 年までは 4 度であったが、2012 年には 6 度に上昇した。中都市の基準温度の 4 度まで弱めることを考えなければならない。
- (委員) ヒートアイランド強度の増加は、急激な都市化や豊田市が盆地地形であることに加え、海風前線が形成され高温・高湿・高濃度となることが理由として考えられる。
- (委員) 豊田市では、矢作川の豊富な水量と低い水温により、ヒートアイランドを分断して、環境を維持してきた可能性がある。緑被率、透水層、蒸発散量等の問題

を詳細に調査し、ヒートアイランドの軽減に効果のある地点を確認する必要がある。

- (委員) 広域化した問題であるため、どのように周辺に協力を得るかは問題があるが、河川のヒートアイランドを緩和する役割をふまえて検討すれば、他地域の方々も関心を示されると考える。
- (委員) 矢作川では、朝、必ず海のほうから鶉が飛んで来て、夕方に川の上を歩いて海の方へ行く。朝に澄んだ空気が来て鳥が動いていることが実感としてよくわかる。
- (委員) たくさん雨が降った年は気温が高い傾向が出ているが、雨量と気温の関係はあるのか。
- (委員) 都市内部のヒートアイランドの構造は、内部が等温層や逆転層になっているため、汚い空気を閉じ込めてしまう傾向がある。そこで、湿った空気が上昇すると時間雨量が増す可能性があると考えられる。また、豊田市は今後集中豪雨が起りやすくなっている。
- (委員) 韓国では、都市開発によって河川を埋めたことにより、ヒートアイランド強度が強まって高濃度汚染となり、人々の健康を害するようになった。このため、河川に沿って海風が通りやすい建物の配置に変えた事例もある。
- (委員) CO2 排出の面では、海側に火力発電所があるが、CO2 を出さない水力発電が大事である。
- (委員) ヒートアイランドは喫緊の課題である。

○まちづくり

- (委員) ヨーロッパでは、河川は鉄道や道路と同じ都市施設の一部であり、このような考え方は日本にはない。豊田市では、市の中央を矢作川が流れているので、矢作川を都市施設として認識してもらいたい。
- (委員) 豊田市に比べ、名古屋の町のほうが緑が多いと感じる。豊田市の中心市街地には緑が全然なく矢作川にこんもりと緑がある。都市の緑化を進めていくことも、川に関連してくると感じている。
- (委員) 山間部から平野部へ人口が流出している。平野部へ家ができることは、逆に、水害が起きると大きな被害になっていく。このため、集落としてはなるべく山間部で残っていただくような、山間部の活用が必要であると考えます。

○治水

- (委員) 矢作川の竹林は治水上、植えられたものである。が、この竹林を伐採しているところがある。枯れて倒れた物は取り除いた方が良いが、竹は伐採しない方がよい。竹流し工法といって水防工法で堤防が切れかかったときに、竹を覆うような工法があったが、現在はこのような水防工法は余りやらなくなった。昔からの工法は将来にもわたって有効だと考える。コンクリートのような固いもの

は境目を洗掘する性質があるので、昔からの工法も頭に入れておく必要がある。

○住民意識

- (委員) 矢作川に対する住民意識の低下が一番気になる。地域にいる方は、矢作川の水を使って生活していることを、啓発していかないと、どんどん川から離れていってしまうと考える。
- (委員) 名古屋市でワークショップをやっていると、市民の方々、学生も含めて大きなスケールには実感がわきにくい。都市スケール、街路スケール、建築スケールと見たときに、市民の方々とか学生が認識できるスケールというのは、建築スケールレベルである。豊田市には小さな川があるので、少し小さ目のスケールからまちづくりという意識を高めていき、市民の方々と協働して進めていく考え方もある。
- (委員) 川の中の話も重要だが、川の外、例えば、上下流への広がりや、川という線から面に広がっていく、そういった広がりがあることを期待している。人と川とのつながりというものも取り戻していくような、さまざまなアクションがあると良い。
- (委員) 都市の公園と川の中の公園をつなぎ親水性を向上させることは良いと考えるが、バーベキュー後のごみが川の中に置いてあることがある。このようなごみの対策が必要である。